

令和5年度 バルツア・ゴーデル事業報告

看護療育

1. 利用者の尊厳を尊重した看護・療育の支援ができる

問題発生時や利用者の状態変化に応じて看護・療育スタッフでカンファレンスを開き、看護計画の修正を行い状況に即したケアを実践できた。また、慣習や根拠の不十分なケアについて意見を出し合い、適正な方法に変更することで、より利用者を尊重した看護療育の実践につなげることができた。

2. 感染・医療安全管理を徹底し、安全で安楽な環境を整える

スタンダードプロセションによる感染予防対策を実施していたが、新型コロナウイルス感染症が1階病棟で8月にスタッフ2名、利用者4名が発症した。2類対応に準じた隔離等の感染対策を講じ、2次感染の発生や陽性者の重症化がなく収束した。感染症の利用者感染を防ぐためには個々の職員が感染症の持ち込みを防ぐことの認識をしっかりと持つことができる教育・指導が必要であり次年度への課題でもある。

3. 施設の運営指針に沿った病棟運営ができる

重症心身障害児施設の変革期を迎える中、10:1看護体制の取得ができたこともあり、医療的ケアや重症度の高い方の受け入れを進めることができた。そのためのスタッフの配置換えや利用者の病棟移動も進むことができた。

ショートステイ受け入れ延べ日数は665日となり前年度より上回っている。医療的ケアの多い方の利用が増えていることから、社会的ニーズに対応できる施設になれるよう、今後も取り組んでいく。

薬剤課

薬剤課の業務内容は以下の通りです。

1. 調剤業務
2. 薬を与薬カートへセット
3. 在庫管理
4. 医薬品情報収集と提供
5. 病棟業務
6. 他業種連携
7. 院外勉強会や講習会へ参加し、薬剤師としての専門知識のレベルアップに努める

2023年度は電子カルテ導入され、薬剤マスター登録や調剤作業の設定変更をするなど、医療安全面を考えて良い方法を決定する年でした。

電子カルテの操作や画面の見方、情報収集のやり方に慣れないと誤認ミスや操作ミスに関するヒヤリハットが発生してしまいましたが、その都度反省し、見直し、改善策を決定。できる限り早急にヒヤリハット報告書を提出することで次のインシデントを防げるよう、業務を遂行して参りました。

また在庫管理については、採用医薬品を後発品に設定したくても、数年前から続いている出荷調整の影響により入手困難な状況下では、先発品に設定する必要が出てきたり、新入所者様用の薬剤確保が非常に難しく、値段が高くても欠品を避けるため購入せざるを得ない事などもありました。そして納品まで時間がかかることが見越して使用量以上の薬剤を常に余裕をもって在庫しておく必要があります。今年度末の薬剤棚卸の結果が例年よりも増額をしてしまっていた事は、それらの影響によるものであると考察いたします。欠品は絶対に起こしてはいけませんが、今回の在庫額以上にはできる限り増えないように気を付けていきたいと思います。

栄養科

食事提供については引き続き大きな事故も無く、無事に終えることができた。厨房の運営においても、委託会社との連携も良好で、安定かつ衛生的に運営できたと考える。

栄養科の体制として、常勤管理栄養士1名で業務を行ってきた。献立や発注業務、病棟等との連携など業務内容を精査しながら、大きな混乱なく遂行できたと考える。

<2024年度（令和6年度）の目標・課題>

- ・食事形態（形態調整食）等における課題解決に向けた取り組みの継続
- ・安心、安全な食事の提供
- ・栄養（再）評価及びNST運営の継続
- 等

給食委員会

委員会メンバー：医師・看護師長・療育主任・言語聴覚士・管理栄養士・委託給食会社現場責任者

内容：利用者の『食』に付随する事を、それぞれの専門知識を有する病棟スタッフと協議する委員会。

2023年度は4月、5月、7月、10月、12月、2月の計6回実施した。栄養科と病棟スタッフ、他の専門職との意志疎通や連携を図る重要な機会である。

【2023年度まとめ】

本年度は、毎月開催から年6回の改正に変更し、管理職を交えた委員会構成で実施した。味見食や聞き取りによる嗜好調査をとおし、日常的に食事に対する意見をとりまとめるこにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各部署管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

【次年度予定】

次年度も引き続き同じ形式で運営される。

リハビリテーション科

入所利用者様には個別リハビリテーションを中心に実施し一人当たり2単位または3単位で実施した。1日の目標単位数を12単位としてリハビリテーション業務を行っており、2月現在平均して12単位の目標を達成できていないので今後の課題である。

科内スタッフの技術向上を目的に月に1度程度ケーススタディーを実施した。

利用者様の情報共有を目的にケースカンファレンスを適宜行い3職種で情報共有を行った。

昨年度末に病棟看護師より吸引方法の指導を頂いた。その後の日常業務において、喀痰吸引が必要な利用者様に対して適宜実施し、安全に遂行することができた。

在宅移行支援として、当院入所の利用者様が安全にご自宅に帰れるようにリハビリテーション介入、環境調整、ご家族への指導を行った。

リハビリテーション目的の短期入所利用者様に対してリハビリテーションを実施し、ご家族への指導等を行った。

病棟で開催される、イベントに各療法士の特徴を生かした関りを行い、イベント運営の一端を担った。

プール活動は病棟活動の一環として行い、実際に入水したり、プール周辺のサポートをしたりといった役割を担った。今年度出た課題を来年度のプール活動に生かすために適宜会議を行い、資料を作成した。

座位保持装置や装具類の作製のコーディネートを行った。3職種や病棟スタッフと意見交換を行いながら、利用者様のよりよい生活のために必要な機能や姿勢を考え、業者との意見交換を行った。

人材育成事業については、事業所への訪問や施設見学時の説明などを行った。

地域支援

医療型短期入所

今年度の大きな変化としては2床での運用から3床（1病棟1床、2病棟2床）となり、コロナ禍以前と同じ運用を再開できた事である。

実績としては令和5年度年間の利用日数実績は665日であり、3床想定での稼働率としては約60.7%となっており、昨年度よりも約6%減少した。予約が多く入るが、急な体調不良や入院になるなどのケースが多くなったと感じる。

特定計画相談支援・児童相談支援事業

2023年度の実績としては特定計画相談1件増、3件減・児童相談1件増、であった。

新規利用内訳としては新規入所利用者を他事業所より引き継いだ方1件、医療型障害児入所から在宅移行した方の児童相談1件。減少としては、逝去による契約終了が3件であった。

地域相談

入退所の支援については新規入所された方が7名・退所された方が9名であった。

入所については児童での入所が契約入所2名、措置入所1名。療養介護利用については、4名、内一名はリハビリ目的の入所で3ヶ月限定であった。

令和5年度事業報告書

特別養護老人ホームサール・ナート

1. 基本方針

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、失われたご利用者様・ご入居者様の日常生活を以前の様にどのように取り戻していくかを一番の課題として取り組んできた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が分類上5類に移行はしたもの、当施設や近隣施設においてもコロナ感染者はゼロではなく、また近隣施設では、クラスターの発生が多発しているような状況が続いた。結果的に当初の計画の様には失われたご利用者様・ご入居者様の日常生活を取り戻すことができなかつた。この件については、次年度の最優先課題として取り組んでいく。

また、経営面においては、物価の高騰、人件費の上昇と大変苦しい状況で、そこに輪をかけて事業全体の稼働率も低下し減収となってしまった。次年度は全事業の稼働率を上げ、安定収入・安定経営ができるように取り組んでいく。

2. 事業目標

I 特別養護老人ホーム サール・ナートの重点（目標）課題

（1）利用者様へのケアの質の向上

- ① 新型コロナウイルスが5類に移行してから、6月より1階にて直接会う事ができる面会を実施した。施設内で面会におけるルール作りをすることで、ご家族様の協力も得ながら取り組むことができた。しかしながら、フロアや居室での面会は実現しておらず、家族様のニーズとしても高いことから、次年度はフロアや居室での面会のルール作りを行っていくこととする。
- ② 面会時に近況報告を家族様へご報告する機会を設けることは昨年度よりもできたが、ケアプランを基に話すことまではできていない。次年度は面会時ではなく、対面での担当者会議を設けていくことを検討する。
- ③ 利用者の検討課題に関して、多職種と話し合う機会を設けることができていた。必要時はカンファレンスも行い、家族様へケアの報告も行っていた。しかし、コロナ禍で長期に渡りケアプランについてご説明できていない現状があり、家族様を交えた担当者会議を実施していく必要がある。
- ④ 新型コロナウイルスが5類になったが、感染対策上フロアには外部からの講師を招いたりすることは無かった。家族様でもフロアに滞在することをお断りしていた状況から、次年度の検討課題とする。

(2) 職員のスキル向上

施設内における職員の新型コロナウイルス陽性の影響や人員体制上外部研修の参加をすることができなかった。内部研修は実施できることもあるが、予定していた各委員会の研修は新型コロナウイルスの影響で一部は実施することができなかった。

(3) 地域機関との連携を図る

新型コロナウイルスが5類に移行したが、流行の波も継続してあったことから、職員の感染者も昨年より多く、施設内対応、感染対策上外部へ訪問することはできていない。次年度の検討課題とする。

<栄養課>

(1) 栄養ケアマネジメントの取り組み

栄養ケアマネジメントを通して、ご入居者様の個々の栄養状態の把握を行い、低栄養の予防、改善に努めた。引き続き、各利用者様にあった適切な栄養管理をし、多職種と円滑に栄養改善に取り組み、生活の場の支援をしていく。

(2) 給食管理の取り組み

今年度、コロナの環境下で2Fしか実施出来なかつた綿菓子が大変喜ばれていたので、来年度は3F、デイにも実施出来る様取り組んでいく。

食品の値上げに伴い、適正価格での食事サービスが難しかつたが、出来るだけ、質を落とさず、入居者様のニーズにあった食事サービスに取り組んだ。今後も、コスト管理を怠らず、変化に富んだ、楽しんで喜んでもらえる食事サービスに努める。

又、今年度力士交流会実施に伴い、次年度は、少しずつ出来る範囲で行事食の再開に取り組んでいく。

<診療所>

(1) 感染予防対策の徹底

感染対策を徹底することで、今年度はコロナ感染者はものの、大きく拡大せず最小限の感染で終息することができた。次年度についても感染対応を継続して行っていく。

(2) 看護師業務全体を見直し、業務の効率化、業務改善を図っていく。

この点については十分な改善に至らず次年度も引き続き行っていく。

II 短期入所生活介護（ショートステイ）の重点（目標）課題

(1) 感染予防対策を徹底し、安全で安心してご利用していただけるサービス提供に努める。

感染対応は徹底してきたが、やはりコロナ感染者を100パーセント食い止めることができなかつた。次年度は今まで以上に感染対応を徹底し、クラスターが発生しないように次年度においても引き続き取り組んでいく。

（2）年間稼働率90%を目標とする。

目標としていた数字には届かなかつた。次年度も90パーセント以上の稼働率を達成できるように取り組んでいく。（令和5年度 稼働率 89.3%）

III. 通所介護（デイサービスセンター）の 重点（目標）課題

1. 基本方針

ご利用者様が在宅生活を継続していくようにデイサービスに来て頂き他者との交流を図り生活に張りを与えて心身機能の維持・向上できるように努めてきた。デイサービスがご利用者様一人ひとりの生活の一部になるようにし、社会的孤立にならないようにして社会参加を促すことができた。

また、感染症については、感染意識を継続して行い対応を強化し感染予防に努めてきた。今後も対応していきご利用者様・ご家族様に安心してご利用して頂ける事業所になれるように取り組んでいく。

＜今年度の重点事業目標

（1）自立支援と在宅生活の維持の援助

在宅での生活を継続できるようにデイサービスでADL維持向上に向けた体操やレクリエーションを行うようにしてきた。また、一人一人に合わせた対応を行うためにもケアプランの見直しやADLに変化があった際は通所介護計画書を見直し援助に繋げるように努めた。

（2）サービスの質の向上

ご利用者様やご家族様のニーズを知る為にもご利用者様・ご家族様とコミュニケーションを図り、ご利用者様がよりよい援助を受けられるようにしてきた。認知症の方が増えてくる中その人に合ったケアを行うように職員間で話し合い統一した援助に努めた。また、無資格者の認知症基礎研修は、3月に実施した。今後、無資格者が入職してきた際は研修を隨時受けるようにしていく。

（3）運営の安定

継続してデイサービスを利用できるようにこまめにご利用者様との関りを大切に援助してきた。新規のご利用者様の相談や受け入れを積極的に行えるように今後も他事業所との連携を深めていく。引き続きご利用者様に合わせたこまやかな援助を行っていく必要がある。

また、新規のご利用者様を増やしていくように事業所への営業等を毎月行くようにしてきた。毎月の新聞（ハッピーデイ）を作成してご利用者様・ご家族様・各事業所等に配布してデイサービスでの様子を分かるように努めてきた。引き続き行うようにしていく。

(4) リスク管理

下肢筋力等をつけるためにも体を動かすプログラムや体操を多く取り入れるようにしてきた。骨折や縫合する等の大きな事故はなかったが、転倒や表皮剥離のような事故はあった。気を付けて対応していたら防げた事故でもあるので引き続き環境整備や援助方法を考えて事故のないように努めていく。また、安全に送迎ができるように安全指導を行うようにして安全運転の意識づけを行っていく。

(5) 稼働率目標

目標にしていた稼働率には及ばず月平均の稼働率が47%であった。(平均人数:13.5人)新規のご利用者様の受け入れは行えていたが、入居や入院等でご利用減したことが多くみられた。来年度も引き続き経営の安定化を図る為にもご利用者様の定着・新規ご利用の受け入れを進めていく。

(6) 年間行事予定

4月：お花見（中止）	10月：運動会（実施）
5月：喫茶（中止）	11月：焼き芋（実施）
6月：買い物（中止）	12月：クリスマス会（実施）
7月：夏祭り（全体）（中止）	1月：初詣（中止）
8月：夏祭り（実施）	2月：節分（中止）
9月：敬老週間（実施）	3月：春祭り（中止）力士交流会（実施）

IV. ケアプランセンターの重点(目標)課題

新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になり、新型コロナウイルス感染症拡大防止に

係るケアマネジメント業務の臨時的な取扱いについても見直し整理が行われ、マスクの着用等の基本的な感染対策は継続しながらであるが、ご利用者が可能な限り住み慣れた自宅で自立した日常生活を送るために、特定のサービスや事業者に偏ることがないよう、公正かつ誠実にその業務を行いました。

令和6年度は介護報酬改定があり要件の変更など保険請求についての改正点を十分に理解し、介護保険最新情報等を定期的に確認し介護保険法・関係法令等を遵守し法令順守で業

務を行っていきます。

また、各関係機関との連携に努め、ご利用者様ひとりひとりのニーズを把握し自立支援・重度化防止の視点での支援・制度の活用やサービスの調整だけではなく地域資源も活用し支援をしていきます。

(1) 利用者のニーズにあった居宅介護支援（ケアマネジメント）の提供

年間利用者数は要介護認定者 715 人、要支援 260 人（約 140 人・1/2 カウント）で、目標を達成する事ができた。要介護利用者の前年度からの増減数は下記の通りであり、状態応じて区分変更申請を行う事で要支援から要介護 1・2 に認定変更となったり、要介護 2・3 から区分変更申請で要介護 5 になった利用者様もおられた。

今後ますます難病や看取り支援など様々な課題を抱えた利用者様の増加が考えられ各専門職と連携し、医療・保健・介護や介護保険外のサービスについても理解や活用が必要になってくると考えられる。引き続き状況に応じて区分変更申請を実施し、住み慣れたご自宅で可能な限りご利用者様やご家族様が望む暮らしを継続できるように支援していきます。

(年間利用者数)	要介護 1～5	715 人		
(年間前年度増減数)	要介護 1	28 人増	要介護 4	22 人減
	要介護 2	18 人増	要介護 5	40 人増
	要介護 3	35 人減		
(年間利用者数)	要支援 1～2	260 人	(2分の1換算： 130 人)	

(2) 居宅介護支援事業所の質の向上

主任介護支援専門員更新研修に参加し資格の更新をする事ができた。居宅事業所の管理者要件(主任ケアマネ要件)は、2027年3月31日まで経過措置期間が延長されているが、主任ケアマネとしての自覚を持ち事業所内外でその役割を果たし、次の更新に向けた研修を続けて得た知識等を、今後の業務や介護支援専門員実務研修における見学実習の研修生の受け入れ依頼が来た時は実践に生かしていきます。

また、研修や連絡会については新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり研修や連絡会が対面で行われる機会も増えてきていたが、感染拡大予防の観点から出席を控える事が多かった。今後は、地域包括支援センター主催の研修や連絡会には徐々に参加する機会を作り関係機関との顔の見える関係作りを再構築し利用者様の支援に生かしていきます。

(3) 経営の安定化

加算要件を満たした場合はもれなく加算を取得し、年間 715 件の給付管理を行い保険請求額も若干であるが前年度より増額する事ができた。

また、枚方市をはじめ、他市の認定調査の委託数も新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になった事もあり前年度から引き続き受付ける事ができた。

令和6年度介護報酬改定で加算要件の変更もあり、より取得が困難になった物もあるが、要件を満たしたときはもれなく算定し保険請求を行います。また、この改正では要支援者が3分の1換算となり、同じ数の保険請求をしても減収が予想される。現在支援している利用者様は引き続きの支援を行うが、今後の受け入れ人数は要検討課題としており、要介護利用者の新規獲得の為の営業活動を続け月30人の保険請求を行うと共に、要支援者の支援にあたる減収分の補填を認定調査依頼を積極的に受付ける事で少しでも補填し経営の安定につなげていきます。

【新規 契約数・委託数・終了数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	2	1	2	2	1	2	1	4	2	1	2	2	22
予防	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
終了	4	0	4	0	0	1	0	3	1	1	2	0	16

【新規依頼先等内訳】

高齢者サポートセンター 高齢者生協	5人
高齢者サポートセンター 松徳会	2人
高齢者サポートセンター アイリス	3人
交野市地域包括支援センター	1人
寝屋川市第10中学校区地域包括支援センター	1人
要支援から要介護へ認定変更/介護度変更・サービス再開	8人
直接依頼（ご家族様）	2人

【取得加算】

初回加算	22人
入院時情報連携加算Ⅰ	22人
入院時情報連携加算Ⅱ	2人
退院退所加算Ⅰ②	1人

(4) 各部署や関係機関との連携の強化

特養併設の居宅介護支援事業所としての強みを生かし、特養サール・ナートへの入所支援を3人（1名増）特養サール・ナートかたのへの入所支援を1名行う事ができた。その他の事業についての紹介率は下記の通りです。

今後も、公正中立な立場で利用者様本位のケアプランを作成し施設併設居宅の強みを生かした支援を行っていきます。

【紹介率】

サークル・ナートデイサービス	45.9% (183人)	6人増
サークル・ナートかたのデイサービスセンター	40% (22人)	7人増
サークル・ナートショートステイ	57.5% (76人)	2名減
サークル・ナートかたのショートステイ	8.3% (11人)	7名減

(5) 地域貢献活動

介護保険サービスの利用に至らないが退院後の在宅生活に向けての相談事や介護保険サービス利用についての相談が多く、状況によっては自宅や病院に訪問する事ができた。今後も親切丁寧に対応し、地域の身近な相談窓口としての役割を担っていきます。福祉用具（車いす・ポータブルトイレ・歩行器・杖等）を地域の方を対象に無料一時貸出しについては、車椅子の貸し出しが3件・ポータブルトイレの貸し出しが3件行う事ができた。福祉用具の貸し出しを開始し6年目になり機種の痛みなどが無いか再確認し、安全に利用して頂けるように機種の再選定やメンテナンスを行い必要な時に地域の方に活用して頂けるように準備を日頃からおこないます。

地域密着型介護老人福祉施設 サール・ナートかたの 令5年度 事業報告

地域密着型特養

1) 特養入所の安定と継続

稼働率 93%（年間空床 727 日 内入院による空室 485 日）退所者 10 名。入所者 7 名。コロナ 5 類になり施設見学や問い合わせは増えた。空室での SS 受入で 265 日活用でき前年度に比べると 230 日多かった。退所者数は前年度より少ないが入院による空室数は増えており、今後重度化が想定され入院による空室が増える可能性が高い。居宅介護支援事業所からの入所問い合わせは少ないので、病院へも働きかけが必要

2) 人材確保・定着・育成

確保：入職者 8 名（常勤 3 名 非常勤 5 名）人材紹介会社経由で採用 1 件あったがひと月半で退職となった。

求人応募がなく人材確保には大きな不安を感じており、人材確保は大きな課題となっている。

定着：退職者 5 名（常勤 3 名 非常勤 2 名）職場環境や仕事内容が理由なものと年齢やライフスタイルの変化によるものがあった。確保が難しい中、職場環境や職員の関係性を整えていく働きかけが必要

育成：研修や訓練を運営基準上では行っているが、質の向上や働き続けられる環境づくりとして職員の知識や技術を高める研修も計画的に行うことや職員一人ひとりにあった育成方法の確立が課題

3) 介護の取り組み

①季節を感じる環境づくり

施設全体やユニット毎でも季節を感じる行事ができた。また季節感のある食事の提供でも取り組めた

②生活の質の向上を図る

会議でプランに基づいた支援を確認し課題に取り組んだ。面会や行事ができるようになり生活の質を取り戻すことができた

③多職種との協働

ユニット会議に多職種が参加することや日頃から医療と介護がコミュニケーションをとることで取り組めたが、課題の共通認識や考え方の違いなど職種を超えて協働するための相互理解に課題が残った

4) 栄養課の取り組み

①栄養ケアマネジメントの取組

ご入居者様個々の栄養状態の把握を行うことで低栄養の予防・改善に取り組めた。

②給食管理の取組

ご入居者様のニーズにあった提供は、食品の値上げに伴い質を落とさず取り組むことは難しかった。その中で行事食は少しづつ再開ができたので、楽しみ喜びが持てるよう引き続き取り組む

5) 医務の取り組み

①健康管理：健康管理において重度化や感染症などで判断が難しかったことは今後の課題である

②感染症への取組：9月にクラスター発生したが2週間で終息。介護と医療が協働して取り組めた。

③チームケア：チームで感染症対策は取り組めた。日頃のケアでは認識の違いなど課題も残った。

④コスト意識：物品や検査等すべて値上がりする中で、無駄のないよう意識して取り組めた

6) 地域との連携

ボランティアの受入はできたが運営会議の開催も不十分で、地域との交流機会は少なく課題が残った

短期入所生活介護

① 年間稼働率 90%を目指す

SS ユニットの年間稼働率 89%で前年度の 80%を超えたことは良かったが目標には届かなかった。空床利用も前年度より多く活用できた。コロナ禍と比べてキャンセルが減ったこと、利用希望が増えたことが大きな理由として考えられる。引き続き目標達成ができるよう努める

② 様々なニーズに応える環境整備

ADL 低下や介護者の入院、虐待など様々な緊急や支援困難なケースの依頼に対応した。緊急・困難ケースの受入には、直接支援する介護職員、薬や体調管理をする看護師の理解や体制が欠かせない中、職員が安定していたことが実績に繋がったと考える。今後の体制整備として人材育成する計画・取組が必要

③ 質の向上

ご家族様を中心にサービス提供者間で課題や対応方法を共有し支援することができた。またサービス利用が多い方には施設から発信することにも努めた。しかしレクリエーションや余暇活動は少なかったので、受入のことだけでなく楽しみが持てるような支援を目指す

地域密着型通所介護

1) 年間稼働率 80%目標

平均 12 人未満の受入の計算となる年間稼働率 76%で目標達成できなかった。前年度 63%と比較し上がっていることはコロナ禍を過ぎた状況で実質営業自粛は 2 日間だけであった。今年度は営業時間が伸びたことで収入は増えている。目標達成には居宅介護支援事業所への営業も課題の一つだが職員の確保そして育成が必須。受入体制を整えるための計画・取組が課題

2) 地域との繋がりづくり

地域行事は再開してきているが業務調整が困難で催しへの参加は出来なかつた。デイ協議会の Xmas 企画や地域貢献連絡会企画のクイズラリーなどには参加し交野市児童との間接的な交流はできた。催しへの参加や事業所での行事に来ていただくななど直接的な交流ができるよう事業所の体制を整えたい

3) 自立支援に向けた取り組み

自立支援プログラム「選択→決定→管理」を 1 つだが組み込め、目標を立てて共有している姿が確認できた。デイ全体として取り組めたが事業別・個別での支援には情報共有の仕方を整えるまでに留まっており、評価も含めたその後に繋がる仕組み作りに課題が残った

4) 認知症の方への特化した環境設定

ご利用者様が抱える個々の課題に対して個別に対応する仕組・ケア別のプログラムは出来なかつたが、無資格者には認知症介護基礎研修の修了や経験者にも介護福祉士の資格取得などが出来たことは、課題としているケア別での環境設定やプログラム取り入れ、多種症例別での対応に取り組めると思うので改善したい

5) 家族支援・ケアマネジャーとの連携と支援

家族様・ケアマネジャーへの参加型行事が再開できたこともあり、施設に足を運んで頂けることができ施設内での動きや報告も分かり易く伝えることができた。今後は他事業所との交流や情報交換も計画したい

令和5年度 枚方市地域包括支援センター サーレ・ナート事業報告書

<令和5年度事業目標>

- 1) 第5圏域の地域包括ケアシステム構築（繋がり）を維持・向上する。
- 2) 健康寿命延伸に資する地域課題に即した介護予防支援の実施。

評価

目標 1)について

計画にあげた予定事業は全て充実した内容で全うし、11についても委託率を操作するまでもなく新型コロナ感染症の5類感染症移行(以下※1と表記)の影響と思われるニーズの増大により、介護報酬費も増え目標達成できた。

目標 2)について

市から受注している「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施業務」を始め介護予防事業も※1により活性化した。地域資源の活動支援や出前講座の回数は過去最高の実績である。令和4年に入職した職員が定着していることが要因のひとつと考える。

総括

全体的なセンターの運営実績は※1により、想定していた業務量増大はあったが職員体制が維持でき、計画通り充実した内容で運営することができた。市の令和5年度実地指導も、過去最高の評価であった。さらに、令和6年3月から20歳代の保健師1名が入職したので、順調にスキルアップし次世代を担える人材として定着するよう計画的な育成をし、医療職が多いセンターの特色を活かし、今後も地域福祉に貢献できる事業所運営に努めていく必要があり次年度も引き続き取り組んでいく。

実績

① 包括的支援事業(総合相談件数)

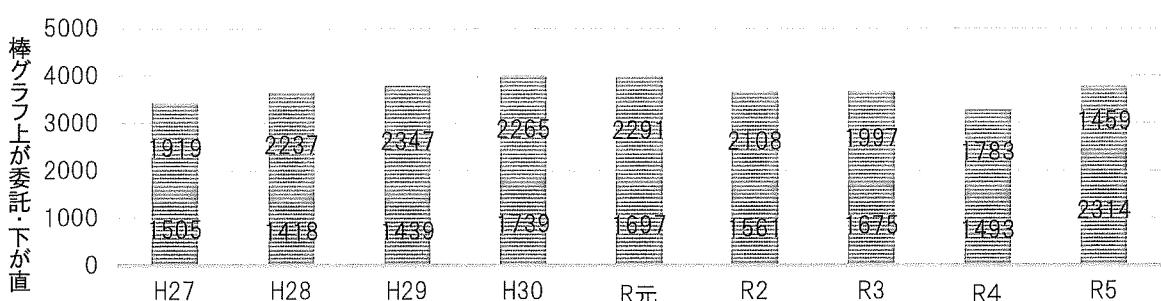
	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
総合相談総件数	1628 件	1920 件	2280 件↑	2483 ↑	2388	2694 ↑

② 指定介護予防支援事業

<介護予防支援計画・第1号介護予防ケアマネジメント実績／R5年4月～R6年3月>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
直プラン	178	181	176	183	192	202	200	196	201	198	205	202
委託 プラン	127	127	125	122	124	123	122	114	118	117	120	120
合計	305	308	301	305	316	325	322	310	319	315	325	322

年度別プラン実績数



※参考 5 圏域高齢者人口の推移

	H30 年 12 月	R3 年 12 月	R4 年 3 月	R5 年 3 月	R6 年 3 月
65 歳以上の人団	7914	7990	7974	7930	7895 ↓
75 歳以上の人団	3974	4396	4442	4611	4803 ↑

社会福祉法人バルツァ事業会 奈津保育園 奈津保育園分園

令和5年度事業報告書

法人所在地 : 奈良市鹿野園町1000番1号

施設所在地(本園) : 奈良市八条2丁目91番地

施設所在地(分園) : 奈良市四条大路5丁目2番55号

1. 保育園の運営

(1) 定員(本園) : 140名 定員(分園) : 20名

(2) 一時保育 : 7名(ひまわり組)

(3) 年齢別・月別入所児童数(各月初日現在) 本園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳児	標準	9	9	9	9	9	9	12	11	12	13	13	13	128
	短時間	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	37
1歳児	標準	22	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	21	270
	短時間	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	17
2歳児	標準	23	23	23	22	22	22	22	22	21	20	20	20	260
	短時間	2	2	2	3	3	3	3	3	4	5	5	5	40
3歳児	標準	24	24	24	24	24	24	24	23	24	25	25	25	290
	短時間	4	4	4	4	4	4	4	4	3	2	2	2	41
4歳児	標準	24	24	24	24	25	25	26	26	26	26	26	26	302
	短時間	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	22
5歳児	標準	28	28	28	28	28	28	27	26	26	26	26	26	325
	短時間	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	23
入園		28	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	33
退園		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
園児合計		144	145	145	145	145	145	148	147	147	148	148	148	1755
延長保育	前延長	40	30	47	41	58	123	131	143	143	153	187	165	1261
	後延長	2	5	7	5	0	0	13	10	8	17	4	8	79
一時預かり 保育		95	114	129	149	111	125	136	128	103	75	85	83	1333

※延長保育 前延長 7:45～利用、後延長 19:31～利用

年齢別・月別入所児童数(各月初日現在) 分園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	標準	4	4	4	5	6	5	6	5	5	6	4	4	58
	短時間	2	2	2	2	3	4	3	4	4	3	4	4	37
2歳児	標準	2	1	1	2	2	3	3	3	4	4	4	4	33
	短時間	0	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	24
入園		6	2	0	2	2	1	0	1	1	1	0	0	16
退園		0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4
園児合計		8	9	9	11	13	14	14	14	15	16	15	14	152

(4) 職員人員について

	園長	副園長	主任	保育士	保育士 常勤	保育士 非常勤	栄養士	調理師	調理師 常勤	非常勤 調理士	事務員その他	合計
4月1日在籍数	1	1	1	15	6 (派1)	8 (派1)	1			1		34
年間退職者				2	2							4
年間採用者				3		1						4
3月31日在職数	1	1	1	15	6 (派遣2)	8 (派遣4)	1	2 委託	2 委託		1	38

2. 保育実施状況

<保育内容報告>

乳児期は養護を中心とした保育とし、幼児期は教育を中心とした保育とした。

各年齢に応じた保育カリキュラムで全体的な計画を作成し保育を行った。

<あいづ保育園分園報告>

・今年度は最終、2歳6名、1歳児8名 計14名である。

○行事交流は「こいのぼり」「たなばた」「焼き芋パーティー」「ひな祭り」に参加。

※普段の自由遊び、避難訓練については参加。

○分園はR5年4月1日より都跡こども園内にて「會津保育園分園」として開園

○月に一回、都城こども園と會津保育園で打ち合わせをする。

【障害児保育の取り組み】

<現状・対象児>

・診断がついている子どもは6名（2歳児：特児1名・3歳児特児1名・4歳児特児1名診断のみ3名）

・加配保育士による個別支援を行いながら集団への取り組みに参加できるようにしている。

・保護者の方と家庭での様子や保育園での様子を踏まえ行事への参加方法を話し合う。

・保育をする中で、気になる子どもがいる為、慎重に子どもの家庭や保育園の様子を情報交換する。

保護者の思いに寄り添いながら子どもの発達に合わせて支援を行い、支援施設や制度を使いながら就学に向けてつないでいく。

① 対応

・療育相談だけでなく、保護者の思いを組み入れながら日々の保育を行う。

奈良市の巡回相談も定期的に行われている。支援施設の数も増えているが、利用数が多く受け入れ幅が狭い問題点は奈良市としても重要課題としている。

・療育支援施設より定期的に園への訪問を行う。その際、両施設で同じ認識をもって関われるようにする。

② 協力、団体施設

S T→ 佃クリニック・フラーテル・ハッピーリング

O T→ リハビリセンター・東大寺福祉療育病院・ラブリー・フラーテル・ハッピーリング・UT キッズ

③ 5歳児については、小学校との連携、教育センターとの関わりをもとに、支援学級への入級、支援学校入学について連絡を図る。(今年度については支援学級：1名)

<要観察児の取り組み>

- ・身体的虐待・心理的虐待・ネグレクトについての要観察児への取り組みを行っている。

(本年度、8月に身体的虐待として1家族兄弟3名、保育中に児童相談所より8/29～9/24置された)

関係機関との現状報告、小学校との連携、ケース会議なども行われる。

- ・対象児の観察については毎日欠かさず行い、傷・ケガがある場合は写真を撮って報告する。

保護者の気持ちに寄り添いながら子育ての方法などを伝えていく。

- ・本年度については夫婦の間でトラブルがあり警察沙汰になることがあった。

子どもたちが巻き込まれないよう関係機関と連絡を取りながら行っていく。

<一時保育>

R年度について今年も目標の900名は達成した。

一時保育から入所に繋がることも増えてきた。

(4) 外部講師の指導状況

英会話 体育教室 茶道 マーチング指導(5歳児のみ)

今年度で茶道の教室が終了となる(茶道の先生の意向)

(5) 実施した特別保育事業状況

- ・延長保育促進事業・一時保育事業・運動会・サマーフェスタ・お泊り代替え行事

- ・マーチングカーニバル・生活学習発表会(0歳児～5歳児 100年会館にて)

- ・秋の遠足(4.5歳児)・お別れ会(全園児・職員)・お別れ遠足(キッズプラザ)

4. 健康管理状況

(1) 園児

内科 年2回 歯科 年1回 眼科 年1回(3・4・5・歳児)

耳鼻咽喉科 年1回(3・4・5・歳児) 検尿(3・4・5・歳児) 身体測定(毎月) ※入所前検診

(2) 職員

定期健康診断 検便 インフルエンザ接種

5. 非常災害危険防止等防災訓練の実施状況

避難・消火・通報訓練（毎月）

- ・消防隊員の下で避難・消火・通報の訓練を行う。（11月）
- ・応急処置の訓練を救急隊の下で研修する。（2月）

6. 地域団体・施設・住民実施した交流事業

- ・移動動物園

7. 苦情処理受付状況

苦情受付件数 13 件。全て解決済み

8. 音楽研修

① 株式会社ブレーメン：堀之内先生よりマーチングの研修を受ける。

同音楽研修の集大成として、マーチングカーニバル（大阪城ホール）に参加。

② ピアノスキルアップ講座：主任はじめ講師を選出した。全職員のピアノスキルに応じて課題を考え、午睡中に個々にあった方法を見いだし練習し、この繰り返しを一年行った。

今年度の対象者は 2 名。園の行事等が無かつたため、普段の保育の中で積極的に弾いていた。

9. 保護者連絡

今まで紙ベースで保護者とのやり取りを行っていたが、R3 年度よりコドモンを導入することにより携帯で連絡・お便り・請求などを行う。また、職員の書類（指導案・計画など）もコドモンにて管理する。R4 年度からはハットヒヤリについてもコドモンにて管理。

10. 今後の課題

① 今年度よりコロナ前の行事に戻りつつある。

行事についても日々の保育を生かしながら子どもや職員が無理のないように工夫しながら生活環境を整えていく。

② 課題であった園庭についても R4 年 3 月に業者が入り修繕することが出来たが、水はけが悪く新たな課題が出来た。引き続き安全確保の為、観察していく。

会津保育園駐車場の横の土地を購入。

③ インターフォンの工事を行った。

有線でなく無線で行っていた為、扉の開閉がうまくいかなかった。電話機に開閉ボタンを設置することで解消された。また、各延長の部屋部屋にも同様の工事を行った為、保護者を待たせず開閉することが出来た。今後も様子を見ていく。

④ R5 年度 4 月より都跡こども園に移行し 1 年となる。

少しづつ園内に慣れてはいるが、新たな課題も多い。

登園の経路が一度外に出ることで大変である為、こども園との相談の結果中の階段も使わせてもらえることとなった。

・都城こども 2 歳児が会津本園に移行する園児は 4 名の予定。

今後も新しい環境の中でも子どもたちが快適に過ごせるようしていく。

令和5年度事業報告

會津生駒保育園

1. 総括

令和5年度は、新型コロナウィルス感染症対策も緩和される中で保育や行事の実施となつた。基本的な感染症対策を取りながら、運動会並びに発表会の実施に加え、保育参加や縦割り保育等を再開できたことが子どもたちにとって貴重な体験となつた。

しかしその一方で昨今、全国の教育・保育施設において、虐待や不適切な保育等が行われている事案が相次いでいることを受け、世間からの乳幼児施設への不信感が高まっている。

保育・子育てを取り巻く環境が未だ目まぐるしく変化する中、子ども、保護者、保育士の信頼関係を深める取り組みがますます求められていると感じる。

こども、保護者、保育士との信頼関係向上に努めるべく対策を強化し、子どもや保護者が安心して保育園生活を送っていただくことが今後も課題となる。

継続課題として、関係機関（近隣小学校・保育所・幼稚園等）との連携により、地域の子育て支援の拠点の一つとなるよう努めていく。

保育士不足が深刻な状況が今も変わらず続く中、職員間のコミュニケーションをより円滑にしていくために、管理者等が職員への声かけを日ごろから行い、職員の不満や心配事を発見する機会や、保育所内の様子を把握し、適切な助言を行い、離職率の低下に努める。

2. 保育園の運営

(1) 令和5年度職員配置(令和5年3月31日現在)

施設長	1人
主任保育士	1人
保育士	17人（常勤13人、非常勤2人、派遣2人）
事務員	1人
保育補助	2人（非常勤2人、派遣1人）
嘱託医	2人（小児科 歯科）

(2) 令和4年度の入所児延人数は次の通りでした。

0歳児 132人	1歳児 165人	2歳児 168人
3歳児 168人	4歳児 168人	5歳児 168人 合計 969人

(3) 実施した特別保育事業

- 延長保育事業 延長保育の利用人数は延469人で、前年比75人の増加」した。
- 一時預かりの利用者数は814人で前年度と比較すると189人増加した。

3. 園児の処遇

園児の健康管理は毎月の身体測定と、年2回の内科検診を実施し、歯科検診は5月に実施。尿検査を6月に実施。視力検査を12月に実施した。また生駒市保健師による聴力検査を行い園児の健康管理を図った。

園児の栄養管理は給食会議を毎月開催し、園と委託業者が連携し園児の栄養管理と健康管理に努めた。

4. 職員研修

令和5年度の職員研修は内部研修を12回、外部研修は29回、(内オンライン研修6回)キャリアアップ研修に3名の職員が参加した。

養成校からの保育実習は5校より10名の受け入れを行った。(7.8.9.2.3月)

5. 防災・防犯

(1) 防災訓練

1. 児童福祉施設最低基準による避難・消火訓練は毎月実施した。
2. 消防法による消防訓練を生駒市消防署の指導のもと、7月に実施した。
3. 消防設備点検を6月、11月に実施した。

(2) 防犯訓練

1. 生駒警察署員・生駒市防災安全課による安全講習を2月に実施した。
2. 生駒市防災安全課・交通指導員による交通安全教室を11月に実施した。(4.5歳児のみ参加)
3. 生駒警察による外部からの不審者侵入対応訓練を10月に実施した。
4. 生駒警察署員・少年補導員による防犯紙芝居による指導(4.5歳児のみ参加)

6. 地域との関わり

令和5年度の地域支援の取り組みは、園庭開放および親子教室を開催した。

拠点広場事業「すくすく」として地域の親子の場として保育室を提供した。

111名が来園 前年比14名の減少となった。(※インフルエンザ流行のため1月中止)

(1) 園庭開放 毎週月曜日 10:00~12:00

(2) 親子教室 子育て中の保護者の皆様を対象とした親子教室を開催した。

開催月は、4月～翌年3月 第2・第4水曜日に開催した。

(延べ40組の親子が参加)

7. 苦情解決

令和5年度の苦情は保護者から1件寄せられた。(話し合いにより解決済み)

令和5年度　會津壱分保育園事業報告

1. 保育園の運営

(1) 令和5年度職員配置(令和6年3月31日現在)

園長	1人	保育士	14人	保育補助	2人	嘱託医	2人
主任保育士	1人	非常勤保育士	7人(派遣含む)	調理員(委託)	5人	シルバー	4人

(2) 令和5年度の入所児童数の延べ人数 ※前年比42人減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	11	12	13	13	15	15	15	15	15	15	15	15	154
1歳	18	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21	21	223
2歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
3歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
4歳	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	226
5歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
計	124	127	128	128	130	129	130	130	130	130	130	130	1546

2. 職員研修・健康管理

(1) ○外部研修への参加

キャリアパス	保健	接遇	虐待	OJT	救命	保育	和太鼓	音楽
2人	1人	1人	3人	1人	4人	8人	1人	1人

○キャリアアップ研修(専門リーダー7人・分野別リーダー4人) ※リモート研修

乳児保育	幼児保育	障害児保育	食育・アレルギー対応	保健衛生・安全対策	保護者・子育て支援	マネジメント
7.5H2回-3人	7.5H2回-3人	7.5H2回-2人	7.5H2回-1人	7.5H2回-3人	7.5H2回-1人	7.5H2回-0人

○園内研修の実施 ※研修部と各部長が中心となり実施

4月	園内外の危険箇所、コドモン入力	8月	訓練の基本 リトミックとダンス	12月	運動会の準備 冬の遊び
5月	熱中症と嘔吐処理、職員間交流	9月	保護者とのコミュニケーション、ピアニカ	1月	子どもの理解、園内掃除のポイント
6月	AED 講習 水の事故防止、運動遊び	10月	ドッヂボール大会、絵画指導のポイント	2月	食の好き嫌いのメカニズム、誤飲と誤嚥
7月	発表会の進め方と指導法、くもん指導	11月	発達に応じた活動・教材選び、読み聞かせ	3月	担当制保育、アレルギー児への提供の仕方

※職員会議(毎月)、各委員会会議(随時) 各会議の実施を行うことで保育を円滑に進められた。

(2) 職員の健康管理

○定期健康診断(年1回・4月)を実施 ○細菌検査(年2回・6月、12月) ※乳児担当保育士は毎月実施

○インフルエンザ対策として流行期前(11月)に予防接種を受けた。

3. 園児の健康管理・衛生管理

毎月	身体測定(全園児)	5月	歯科検診(2~5歳) 尿検査(3~5歳)	6.11月	内科検診(全園児)	2.3月	聴力・張力検査(4.5歳)
----	-----------	----	----------------------	-------	-----------	------	---------------

4. 給食・おやつの取り組み 名阪食品株式会社と連携し、月1回の給食会議、献立改善、行事食提案等、安心安全で楽しい食事提供が出来た。(行事食:鯉のぼりオムライス、忍者ランチ、月見ウサギサンド、おせち風プレート他)

5. 保育内容について

○行事や保育・食育活動

4月	入園・進級式	5月	お米苗植え 園外保育 運動会	6月	夏野菜植え 水遊び・プール開き	7月	お楽しみ会 七夕、夏祭り	8月	水遊び・プールじまい	9月	夏野菜の収穫
10月	芋ほり遠足 さつま芋収穫 冬野菜植え 保育参観	11月	稲刈り 発表会 (2~5歳児)	12月	発表会(0.1) クリスマス会 お餅つき おにぎり作り	1月	お正月遊び 作品展 冬野菜の収穫	2月	節分の会	3月	お別れ会 移動動物園 園外保育 卒園・修了式

6. 地域との関わり

○保幼小交流会(壱分幼稚園、いちぶちどり保育園、壱分小学校)

4月	今年度の活動打ち合わせ	5月	保幼小接続会議	6月	壱分小学校校内巡り 壱分幼稚園と交流会
6月	いちぶちどり保育園と交流会	9月	保幼小接続会議	10月	小学校の運動会練習見学 保幼交流会
11月	小学校給食体験 いちぶちどり保育園と交流会	1月	保幼小接続会議	2月	小学校連絡会

○地域の行事：いこいこ祭り(11月)年長児の参加。○職業体験受け入れ(11月)南中学校4名。

○くつろぎの里(高齢者デイサービス)と手紙、手作りおもちゃを通しての交流。

○壱分町西自治会の農園にて、地域の方とさつま芋堀りに参加(5歳児・3歳児)

○実習生の受け入れについて ※()はボランティア

6.8.9.10 11月	白鳳短期大学看護学部 看護実習 25人	8月	大阪梅花女子大学1人 (大和大学白鳳短期大)1人	10月 11月	大和大学白鳳短期大学部1人 大和大学白鳳短期大学部1人	2月	大阪こども専門学校1人
-----------------	------------------------	----	-----------------------------	------------	--------------------------------	----	-------------

7. 苦情対応 ○ご意見 BOXによる苦情や要望0件、事務所に直接要望1件

8. 事故・災害への危機管理

(1)各種訓練の充実を図る ※各関係機関と連携し訓練を行う

毎月	避難・消火・地震訓練	7月	不審者対応研修	8月	消防通報訓練	10月	交通安全教室	2月	消防通報訓練、防犯教室
----	------------	----	---------	----	--------	-----	--------	----	-------------

(2)保育環境の整備

○レスキューショルダー、トランシーバー、防炎マットの購入 ※生駒市機能強化費補助金にて対応

○保育室空調メンテナンス工事 ○配膳リフト修繕 ※生駒市修繕補助金にて対応

9. 実施した特別保育事業

(1)延長保育事業 午後6時30分～午後7時30分 ※前年比286人増

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
107	97	155	131	126	105	145	121	138	122	137	138	1,522人

(2)一時預かり保育事業 月～金：午前8時30分～午後4時30分 ※前年比593人減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
半日	10	0	3	9	5	8	4	16	5	4	6	3	73人
1日	13	13	27	21	29	21	26	21	41	23	73	31	339人
延べ	23	13	30	30	34	29	30	37	46	27	79	34	412人

(3)心身障がい児保育事業 令和5年度は無し

(4)子育て支援拠点事業(こもれびひろば) 毎週：月・水・金9:00～14:00まで ※前年度比79組減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
組	13	8	10	13	11	21	15	8	4	5	6	14	128組

(5)親子教室(0歳コース毎月第2金曜日・1.2歳コース毎月第2水曜日) 10:00～11:00まで

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	0		0	0	0			0	0	0	0	0	0組
1.2歳	0		3	2	3			0	1	0	1	1	10組

10. 総括

新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けされたことで、対策を講じながら従来の保育に戻しつつ、活動を行った。保育参観を再開したこと、家庭では見られない園児の姿や成長などを保護者の方に伝えると同時に、クラス運営や方針なども伝えるよい時間となった。保育園に年長児については園外活動を通常で行い、地域の保育園、幼稚園、小学校と「保幼小交流会」の実施に至り、就学前の準備が十分に行えたと感じる。一方、一時預かり、子育て拠点事業の利用者は前年度より減少した。令和5年度に小規模園が2園開園し、令和5年度の待機児童数が減少したことが要因の一つと思われるが、地域のニーズや行政の動向に注視していく。